



# GIGAスクール構想の実現に向けて



GIGAスクール構想とは、2019年12月に文部科学省から発表された事業です。

GIGAとはGlobal and Innovation Gateway for All（すべての人にグローバルで革新的な入口を）の略です。児童生徒一人一人に1台のパソコン端末を配置し、全ての学校に高速大容量の通信ネットワークを整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちに最適化された創造性を育む教育を実現する構想です。

栃木市教育委員会でもこれを受け、令和3年4月から児童生徒1人1台の端末機の配備を順次進め、学校や家庭での活用を図っていく予定です。



## 教育長通信 ～「GIGAスクール構想」一考～



「GIGAスクール構想で、学校教育の何が変わるの？」 そんな声を少なからず耳にします。

そこで今回は、今の教育に求められるものとICT（情報通信技術）活用について考えを整理してみました。

学校教育の目的は、端的に言う子供たちに「生きる力」を育むことです。そのためには、学校と家庭、地域が連携・協力しながら、「生きる力」の三要素と言われる、確かな学力（知）、豊かな人間性（徳）、健康・体力（体）をバランス良く育てて行くことが大切です。このことは、表現の差異はあるにせよ、時代を越えて受け継がれてきた教育についての普遍的な考え方です。その上で、時代の流れや社会の変革に伴い、それぞれの要素の捉え方、そしてそれらに求められるものが少しずつ変化していくものと考えます。

現代社会に目を向けると、想定を越えた自然災害が頻発したり、未知のウイルスに生命を脅かされたり、また、AI、IoT、ビッグデータといった技術革新が急速に進展し、そのことによって、現在学齢期にある子供たちが就職する頃には、65%もの人が今は存在しない職業に就くことになるであろうとも言われています。正に、極めて変化の激しい予測困難な時代を迎えています。そのような時代を逞しく生き抜くためには、例えば、想定外の課題に直面した際にも柔軟に粘り強く対応する力や、答えが一つでない問題にも自ら解を見出して行く力、また、自分と価値観や考え方が異なる人ともコミュニケーションを通して繋がり、協働して事を成し遂げる力等が求められていると言われています。

我が国には、これまで地道に積み上げてきた他国に誇れる優れた教育実践があります。それらと、ICTを活用した最先端の教育技術とのベストミックスを図ることで、教師と子供たちの力を最大限に引き出すことが可能になり、時代の要請に応えうる教育が展開できるものと考えます。教育委員会といたしましても、教育の「不易」と「流行」をしっかりと見極めながら、未来を担う子供たちに「生きる力」を育ていけるよう、GIGAスクール構想の具現化に向けて取り組んでまいります。

教育長 青木 千津子

### 【編集後記】

“教育委員会だより 絆”は市民の皆様に、教育への関心を一層高めてもらうため、‘開かれた教育委員会’としての活動を「分かりやすく」「親しみやすく」紹介していきます。

※ご意見・ご感想はこちらまでお寄せください。

栃木市教育委員会教育総務課 〒328-8686 栃木市万町9-25 電話：0282-21-2461  
FAX：0282-21-2689 Email：kyoumu@city.tochigi.lg.jp



教育委員会だより



発行：栃木市教育委員会  
住所：栃木市万町9-25  
電話：0282-21-2467  
FAX：0282-21-2689  
Email：kyoumu@city.tochigi.lg.jp

## 「牛歩と手間ひま」

「魔女の宅急便」の原作者である角野栄子氏から伺った話があります。『～子どもがボーッと空を眺めたり、身近な動植物の変化に関心を示したりする時間と空間が本当は大事～この時に空想力が働き、創造力や感性が磨かれていく～無駄と思われる中にこそ豊かな世界が隠れている～』さらに、十数年前、雑誌の対談記事に目が止まりました。インタビューに応じた木村拓哉氏は毎朝、自宅周辺を散歩しながら、道端で育つ小さく可憐な草花の「生き抜く力」に共感し、心が癒やされると言うのです。「何もない。見ればある」陶芸家の河井寛次郎の名句と重なります。子どもの環境は、仲間・空間・時間の三間から成り立っています。しかし、今の子どもの日常は、様々な決まりやスケジュールが細かにプログラム化されていて、それをこなすだけで精一杯になっています。子どもが多くの時間と労力を費やしながらか「手間ひま」をかけている光景を見るのが少なくなりました。例えば、製作物などは手っ取り早く仕上げたり、本を選ぶ際には、文字が多い本より、絵や写真の多い本を好んだりする傾向が見られます。指やマウスを動かすだけで瞬時に世界中の様々な情報を入手できれば、わざわざ足腰を使い、汗までかいて手間ひまをかけるのは、面倒だと思うのは自然なことです。しかし、手間ひまをかけることで、集中力や段取力が身に付き、成就感を満喫し、愛着心が生まれるのです。子育てに万能薬はありません。教育も「手間ひま」という“心のゆとり”の中で実を結び花開くのです。コロナの影響でライフスタイルや価値観が大きく変わりました。世界中が「速さ」「効率」「新しい日常」に注目する中、変えてはならないものまでも変わってしまうことに誰もが不安を感じ、夢がもてなくなります。そこで、栃木市の教育を未来へ向けて真っ直ぐ丹念に牛歩させるためには、「生命や人権尊重」を車体に例え、不易の車輪と流行という車輪のバランスを操ることがいかに肝要であるかを未知なるウイルスから改めて気付かされました。

教育長職務代理者 後藤 正人

## 栃木市教育のスローガン

「ふるさとの風土で育む 人づくり・まちづくり」

～とちぎ未来アシストネットの推進～

‘とちぎ未来アシストネット’とは、学校・家庭・地域の連携により、地域ぐるみで子供たちの「生きる力」を育むとともに「地域の活性化」を図る本市独自の教育システムです。



## 特集 コロナ禍での学びの保障



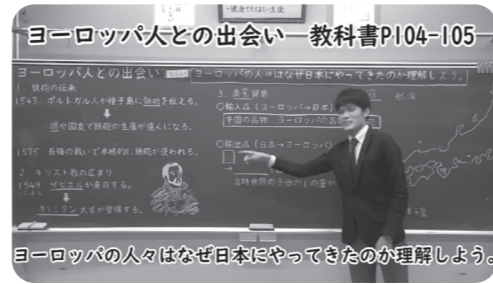
市の小中学校では、3か月間の臨時休校において、各学年の学習内容を終えることができるのか心配される状態でしたが、夏休みの短縮や、学校行事等の見直しを図ることを通して、何とか補うことができる予定です。各学校の努力に心より感謝したいと思います。しかし、今後、年度内に長期の臨時休校を取らざるを得ない状態になった場合、次年度に学習内容を持ち越す事態となってしまいます。

そこで、今後、長期の臨時休校になっても、子供たちの学びを止めないための学習支援について紹介します。

### 長期の臨時休校期間中には授業動画を配信し、授業を進めます！

学校では、日々新型コロナウイルス感染症の対策をしながら児童生徒の教育活動を推進していますが、今後の感染状況が不透明な中、いつでも臨時休校の措置を執ることを考えておかなければなりません。

そこで、今後、長期の臨時休校になる場合には、国語、社会、算数（数学）、理科、英語（外国語）の5教科を中心に、各校の教員が授業動画を作成し、家庭でも授業が進められるようにしていきます。また、家庭で動画を見ることができない場合には、学校のパソコンで視聴できるようにしていきます。



### 4月からは児童生徒一人一人に 端末機（キーボード付きタブレット端末）が配られます！



現在、令和3年4月から児童生徒一人一人に端末機が配れるよう、準備を進めているところです。端末機が全員に配られれば、家庭で授業動画の視聴ができるだけでなく、画面越しにリアルタイムで授業を受けることも可能となります。先日、それに向けて教員対象の研修会を開催しました。



誰もが経験したことのない新型コロナウイルスに翻弄されてからほぼ1年、いったいつになったら収束するのでしょうか。

輝かしい門出はずなのに最小限の人数で静かに行われた卒業式、入学式、制限された部活動、運動会、そして臨時休校、分散登校、夏休みの短縮、行き先変更の修学旅行等々とにかく初めてのことなので不安だらけです。

でも、私たちにできることと言えば、3密を避けマスクの着用、うがい、手洗い、ソーシャルディスタンスを保つこと。

先生方、ご家族の皆さん、学校を支えてくださっている皆様のご心配も計り知れないことと思います。

一日でも早く元気にマスクなしでグループごとに仲良くおしゃべりしながら登下校する姿を見たいです。

教育委員 西脇 はるみ

社会全体が長期にわたり新型コロナウイルスと共に生きていかなければならない状況の中、子どもたちの安全の保障と学びの保障の両立をと、学校では子どもたちがウイルスに感染しないよう、マスクや消毒・検温の徹底やソーシャルディスタンスを確保した教育活動の工夫や行事の見直しなど、安全と学習の両立を目指す試行錯誤が各学校で続けられています。GIGAスクール構想の実現で、ひとりに1台の端末が整備されます。オンラインだからこそできる学習活動、ICTだから得られる学習効果があるかもしれません。

コロナ禍においても、すべての子どもたちに学びと笑顔が止まらないように。

子供の学び応援サイト

とち介の学びチャンネル



教育委員 館野 知美

## 栃木市教育ニュース



栃木市教育委員会では、「栃木市版先生の働き方改革ガイドライン」を作成し、学校現場の業務の適正化に取り組んでいます。先生の働き方改革の話題を市民の皆様にお知らせします。



多忙化が進む学校現場において、先生本来の姿である“子供たちと向き合う時間の確保”に向けた校務の改善を図るため「先生の働き方改革」を進めています。

先生方は、児童・生徒を迎える準備のため、少し早めに勤務が始まります。出勤時と退勤時には、必ずタイムレコーダーによる打刻を行い、校長先生が職員の出退勤を管理しています。タイムカードへの打刻は、先生が勤務状況を振り返り、自身の働き方改革を意識することにも役立ちます。

ICTを活用し、放課後の職員会議や校内研修の時間を短縮するとともに、勤務終了時刻後の職員室は、留守番電話対応にするなど、校務の改善を図っています。

「働き方改革」の推進は教育の質の向上につながります。



タイムレコーダーで打刻する職員（家中小）

学生の頃、私はよく叱られたせいか、ずっと先生の存在を疎ましく思っていた。ところが最近、その叱られた先生ほどなつかしく思い出す。なかにはこの世にいらっしやらない先生もいて何だかとてもやるせない。

「親の心、子知らず」ならぬ「先生の心、教え子知らず」である。

近年、先生を取り巻く環境は劇的に変化した。英語教育、プログラミング教育、いじめ、保護者や地域、教育委員会への対応。ふつふつと湧き出す問題は、先生を疲弊させる。先生方には一人でも多くの子供たちのことを深く考え、心に寄り添った指導ができるように、時間的な余裕をたっぷり与えてあげたいと思う。



教育委員 福島 鉄典

働き方改革が始まり、ある校長先生が効率よく仕事をする事を考えるよいきっかけになった、と仰っていました。常に意識をもって働くことは、とても大切です。ただ、子ども達に向き合う仕事には、予想外のことがいくつも起こり、臨機応変に対応することが不可欠です。そのような日々を過ごす先生方には、感謝しかありません。

昨年からのコロナの流行により、様々なことの見直しや中止を余儀なくされました。この経験を、学校での働き方改革推進の追い風となるように生かしてほしいと思います。先生方のゆとりは、よりよい教育へと繋がります。本当に必要なことを精選し、先生や子どもの笑顔があふれる栃木市に、と願います。

教育委員 大橋 孝子



もうひと昔以上まえ、ある教育機関の長と心を開いていく会話の中で、最近忙しくてとちらっと愚痴りました。そしたら、その人が突然怒りだしたのです。何かボタンを押したか？いやいや、「自分以上忙しい人はいない」仕事をする自分に対して何事をいうか、いうことだったらしい。続いた言い訳の裏に、不健康な孤独感がありありと見えました。

教師にのしかかる二つの悪魔的標語「公務員なんだから」と「子供のためなんだから」のストレスは、よく、教師の諦めのため息に変わります。おそらくその人には、「トップなんだから」が加わって、子供の成長や努力を見ても消せない、あふれ出そうな苦しさがあったのでしょうか。

上も下も、多くの教員の心のバランスは、決壊ラインを行き来しています。

教育委員 林 慶仁